

鈴木 りつか 議員 やとみ志政会



問 衛生用品備蓄と活用の進捗は

答 備蓄計画に基づき配置

問 衛生用品の備蓄状況は。

答 〔企画部長〕 令和 7 年度末時点で、生理用品約 3 万 6 千枚、オムツが子供用約 1 千枚、大人用約 2,400 枚。

問 備蓄の想定人数、日数は。

答 想定最大避難者数 3 万 7 千人、備蓄品目毎に 3 日分。

問 夜用サイズの生理用品の検討状況は。

答 備蓄計画を立てている。

問 生理用品を必要とする市民への支援は。

答 〔健康福祉部長〕 災害備蓄品の入れ替え時に再利用可能な物資が生じた場合、ひとり親家庭に配布する。

問 市内公共施設での生理用品配布の利用状況は。

答 〔総務部長〕 市役所内で急に必要とする市民に配布、令和 6 年 6 月から 8 年 5 月末までに 16 件。

問 試験的に常設する考えは。

答 考えていない。

問 衛生用品の備蓄と活用について、市長の考えは。

答 〔市長〕 各自が自助の観点で、災害時に備える啓発と備蓄品入れ替え時に配布する。



問 はしかの感染予防と対策強化を

答 ホームページ等で広く周知する

問 本市の※ MR ワクチンの最新の接種率は。

答 〔健康福祉部長〕 令和 7 年度、第 1 期 96.7%、第 2 期 90.2%。

問 成人の接種状況は。

答 市補助では、風しん第 5 期男性 383 人、大人の風しん女性 28 人。任意接種は不明。

問 感染が疑われる市民から相談があった場合の対応は。

答 医療機関への相談や、県が海外渡航者などを対象に実施する抗体検査を案内。

問 麻しんが疑われる場合の注意喚起は。

答 外出を控え、事前に医療機関に連絡し、指示に従い、可能な限り公共交通機関の利用を避け受診を勧めていく。

問 学校、公共施設等で患者や疑い例が発生した場合の連絡体制は。

答 保育所は相互連絡アプリ、児童クラブは施設職員と電話や FAX、学校は、「学校における麻しん対策ガイドライン」に基づき連絡アプリで連絡。

問 市民に分かりやすく周知する考えは。

答 市ホームページ、市公式 LINE や X など注意喚起し、周知する。

※麻しん（はしか）と
風しん（三日はしか）
を同時に予防するた
めの生ワクチン

